

少人数制によるきめ細かい指導と、実践力を養う教育が自慢の広島国際大学。
中でも4年次から始まる「ゼミ」では、各分野の専門教員のもとで、少数の学生が、
より深い研究を進めます。個性あふれるゼミ生活を、ちょっとのぞいてみましょう。



保健医療学部 総合リハビリテーション学科 「佐々木ゼミ」

研究
内容義肢装具研究
理学管理学

●プロフィール

佐々木 久登 教授

九州リハビリテーション大学校を卒業後、広島鉄道病院リハビリテーション室などに勤務。広島大学で社会福祉士を、広島大学大学院で博士号（保健学）を取得。畿央大学教授を経て、平成19年より現職。

●所属学会

日本理学療法士学会
日本義肢装具学会



高齢者に多い転倒骨折の予防を多角的に研究し、 環境の整備や、補助具の開発を推進する。

佐々木先生は義肢装具とリハビリの専門家として30年以上、病院で患者と向き合ってきました。その後、大学院で博士号を取得。目指したのは臨床経験を



発表を聞き、真剣に意見を交し合う学生たち

生かした「予防」でした。

佐々木ゼミでは主に、骨折予防の研究に取り組んでいます。高齢者が骨折する主な原因は転倒。転倒しにくくするためには、正確で速い状況判断や、素早い反応が重要です。

実は、人の判断能力や反射速度は、色や明るさ、音、皮膚感覚など五感に大きく左右されています。反応速度は、脳の血流変化を計って調べるのですが、落下するものをつかむテストでは、匂いが変わるとつかめるスピードが変わるのだそ

うです。五感による影響を調べれば、より安全で暮らしやすい環境を整えることができます。「ゼミでは整理整頓を厳しく言われます。それこそが研究以前の、環境整備の基本ということなんです」と学生が教えてくれました。

転倒骨折を防ぐ道具の研究もテーマのひとつです。体をサポートして転びにくくする補助具や、転んでも骨折しにくいプロテクターなどの開発を進めています。

すでに製品化されたものもあります。重い・硬い・かさ張るという敬遠要素を解消した大腿骨用プロテクターで、軽くて扱いやすく、衣服の上からでも簡単に身につけられるのが大きな特徴。巻きスカート型で使いやすく、施設や家庭で使われています。



先生の冗談に、学生から思わず笑みがこぼれる

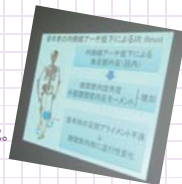


発表を繰り返し、研究の完成度を上げていく

もちろん、道具に頼らずに予防するのが一番！先生は予防対策の講演活動にも力を入れています。転倒骨折の予防には、筋力よりも関節のやわらかさが重要。「足の指でジャンケンの練習をするのがいいですね。1日1回ラジオ体操をするのもおすすめ」だそうです。

佐々木先生の夢は、大学対抗で福祉機器や介助用具の開発を競う大会を開催すること。「学生のモチベーションが上がるし、ユニークなアイデアも生まれてくるでしょう。学生はお互いに切磋琢磨して成長していきます。企業との連携で製品化が進むことも期待できます。今後ますます進む高齢化社会に役立つ活動として、ぜひ実現させたいですね」。

「若年者の足部内側縦アーチ低下が膝関節バイオメカニクスに及ぼす影響」という卒業研究。膝疾患の原因に迫る



Link

Hiroshima International University Communication Winter vol.24

保護者と大学を繋ぐ、
広島国際大学後援会 会報

[link]環、結合させる人(物)、つなぎ、きずな、連結

常翔学園

HiU

広島国際大学
Hiroshima International Univ.

Contents

Focus @ Campus

- 後援会 会長あいさつ
- 学長あいさつ

後援会だより

- 2011年度広島国際大学教育懇談会

広島国際大学からのお知らせ

広島国際大学Report

就活NEWS

ゼミ訪問

- 保健医療学部 総合リハビリテーション学科「佐々木ゼミ」